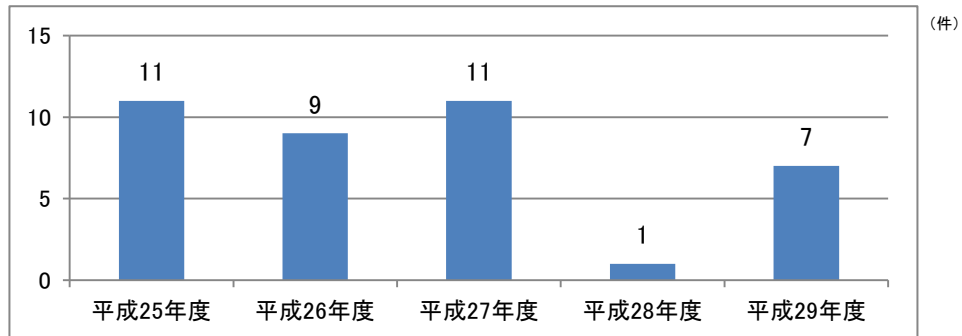


32 超重症児の手術件数

○項目の解説

超重症児とは、食事摂取機能の低下や栄養吸収不良などの消化器症状、呼吸機能の低下のために濃密な治療を必要とする小児です。超重症児の手術は健康な小児の手術に比べ、より高度な医療技術と治療体制が必要です。熟練した小児外科医や麻酔科医の配置が必要ですので、小児医療の質の高さを表す指標となります。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

当院の診療圏では出生数が年々激減していますが、当院は道北・道東における唯一の小児外科認定施設であり、症例が集中します。手術数が増加傾向である原因として、NICUから引き継ぐ染色体異常症例、中枢神経障害症例、先天性筋疾患手術が増加していることに加え、重度障がい児施設や在宅の障がい児に対する気道手術や胃・食道逆流手術症例が増加していることがあげられます。さらにはキャリアオーバー症例(小児期を超え成人期にまで治療を持ち越す症例)も次第に増えています。当院の診療圏においても、重症児への手術は本人のQOLを向上させるのみならず介護者のQOLをも向上させることが知られるようになってきました。

*QOL: 物質的な豊かさやサービスの量、個々の身辺自立だけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさと自己実現を含めた概念。

○定義

医療診療報酬点数表における、「A212-1-イ超重症児入院診療加算」及び、「A212-2-イ準重症児入院診療加算」を算定した患者の手術(医科診療報酬点数表区分番号K920、K923、K924(輸血関連)以外の手術)件数です。

○算式

実数